

⑧観光に関する現状と課題

1. 自然分野の現状と課題

- ・鍾乳洞はH17年まで観光客は約10万人でしたが、H18、19年は約13万人と若干増加しています。
- ・ひるがの高原はH15年に約19万人でしたが、H19年には約6万人と3分の1程度まで減少しています。大きな要因として、高速道路を通る車が増え、従来からの国道を通る車が減少し、グリーンシーズンのスキー場の営業がなくなったことが考えられます。

○見所のある景勝地は集客力を維持できるが、自然だけでは観光客は呼べなくなってきています。

◇観るだけではなく、体験すること（ツーリズム）を併せて提供していく必要があります。例えば、鍾乳洞の観光客の増加は、ます釣り体験、バーベキューなど別メニューがあるほか、PR効果によると推測されます。どの観光地でもPR次第ではまだまだ増加する可能性があります。

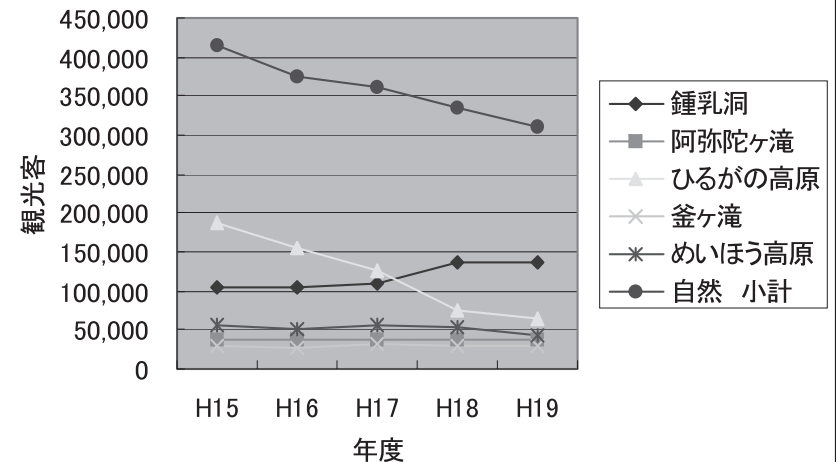
2. 文化・歴史分野の現状と課題

- ・白山文化の里、フィールドミュージアム等の観光客はほぼ横ばいです。郡上八幡には、H19年で約38万人と比較的多くの観光客が訪れています。

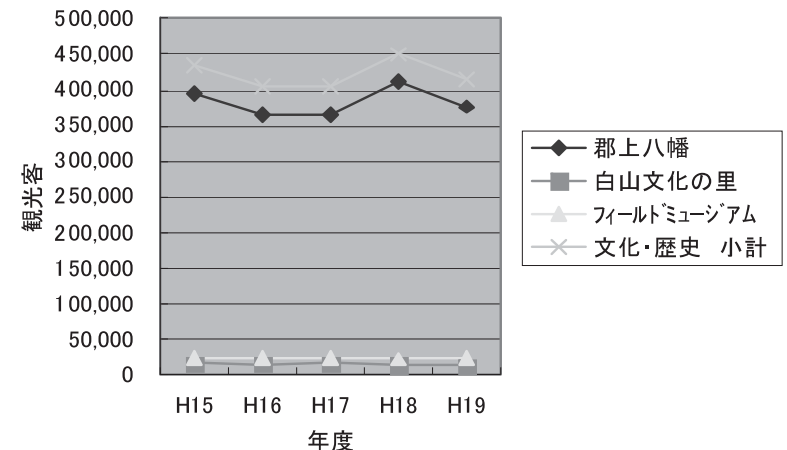
○郡上八幡の中心は街並みであるが、周辺には城や博物館などの文化施設、サンプル工房などの体験施設、団子屋や酒の試飲などの手軽な食、吉田川などの自然、時期によっては踊り、釣りがあり多彩な魅力があります。

◇郡上八幡と同じように、郡上市全体を一つの観光地として捉え、点在する観光地を繋げることが必要です。違うタイプの観光地を繋げ、季節により違う魅力を発信することで再度訪れてもらうことが必要です。

自然【郡上市観光動態調査】



文化・歴史【郡上市観光動態調査】



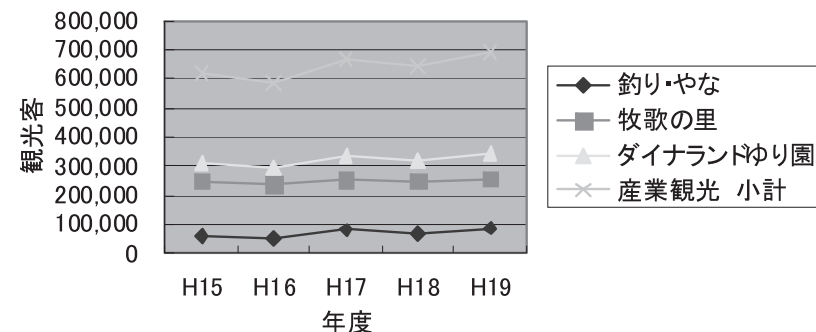
3. 産業観光分野の現状と課題

- ・牧歌の里、ダイナランドゆり園、釣り・ヤナ場の観光客はほぼ横ばいか微増しています。H20年には郡上鮎が地域団体商標登録され、また味においては日本一の鮎となっています。

○観光施設への入込客数はある程度見込まれますが、各施設が連携しておらずイベントなどは、それぞれが単独で開催し、短期間で終わっています。しかし郡上市には、郡上鮎という新たなブランドがあります。

◇体験型の観光地の客は減少しないので、PR活動をさらに行う必要があります。郡上鮎については、シマノ、ダイワなどの釣り大会等により、全国へ向け、長良川の鮎をPRし観光客を呼びます。さらに天然鮎の商品開発を行い観光客や都市の住民に消費して頂きます。

産業観光【郡上市観光動態調査】



4. スポーツ・レクリエーション分野の現状と課題

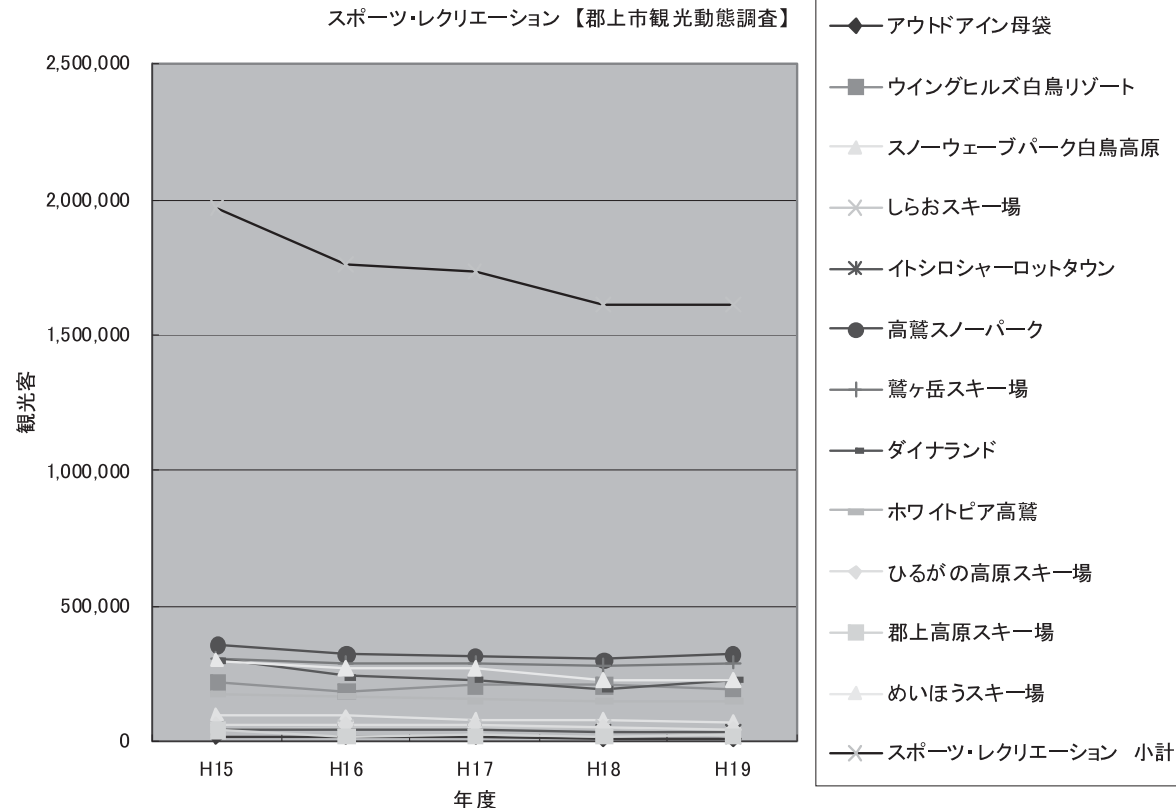
- ・H15年には197万人のスキー・スノーボードの観光客がありましたが、H19年には約161万人と36万人減少しています。但し、高鷲地域でハーフパイプなどメニューが多い施設、最新機器のある施設は横ばいか微増しています。

○若者の減少によりスキー・スノーボードの入込客は減少傾向です。しかし、現在、西日本のスキー場のメッカは奥美濃です。

◇今後、若者の減少により、スキー場の経営も厳しくなります。ダイナランドゆり園のように冬だけではなく、春夏秋の観光ビジネスを行う必要があります。しらおスキー場においても春に山菜採りなどのイベントがあります。

◇スノーボードワールドカップは継続しつつ、全日本スキーなどの大会を招致し、スキー客の増加へ繋げることが必要です。

スポーツ・レクリエーション【郡上市観光動態調査】



5. 温泉分野の現状と課題

・郡上市には大きく 9 箇所の温泉があり H15 年では 134 万人の入込客がありましたが、H19 年には 114 万人へと約 20 万人、金額として約 1 億 2 千万円（単価 600 円/人として積算）まで落ち込んでいます。近年、都市部に最新設備の温泉が数多くできたことや、お客様の志向が安・近・短（安く、近く、短時間）となり、入込客の減少となっています。また、東海北陸自動車道の整備により、自動車道が観光客の主要な通行手段となり、自動車道から離れた施設については減少傾向となっています。

○設備の大きい温泉、アイテム浴槽など豊富なところは横ばいです。郡上温泉、牧歌の里「牧華」はパックツアー・隣接施設との共存により回復傾向にあります。

◇隣接する観光施設とのパックツアー、スキー場への P R 活動、地域住民を巻き込んだイベント等に取り組む必要があります。市営温泉は、指定管理制度の導入などによる民間活力の利用とともに、ポンプ、ボイラー保守などの維持管理費の節減、自販機管理やシャンプー購入など中間業者の排除、ガスはバルクタンク（納入業社が無料施工）へ変更するなど単価の見直しをはかります。また入浴施設など一部改修や、職員の意識改革等により魅力ある施設づくりを常に努める必要があります。

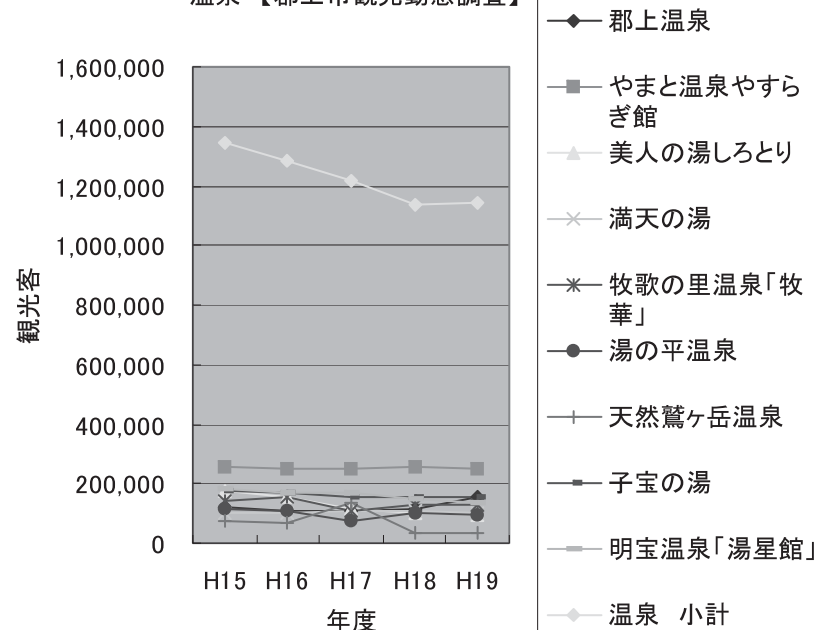
6. 道の駅(買物)分野の現状と課題

・郡上市内の道の駅は、H15 年の 134 万人から H19 年には 154 万人へと約 20 万人増加しています。但し、道の駅明宝は H15 年と H19 年を比較すると約 135 千人の減となっています。道の駅和良は「ちんちろ」が奥美濃カレープロジェクトに参加し、長寿団子を販売した事による増加と考えられます。

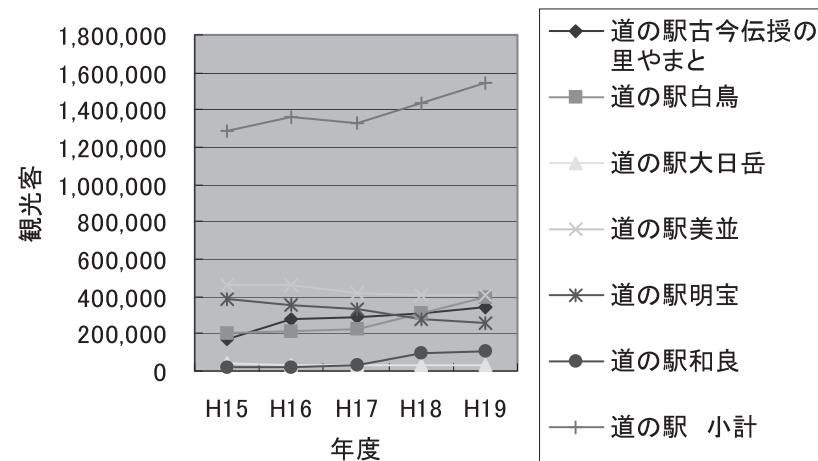
○国道 156 号線添いにある道の駅は比較的安定した観光客を推移していますが、東海北陸自動車道の高山市への接続によりせせらぎ街道への観光客は減少しています。

◇来訪客を増やすには、地元イベントと併せ誘客することも大事です。また地産池消を進めるため、地元の材料や製造方法などで商品開発し販売や営業活動を行い、地元ならではの味をつくる必要があります。

温泉【郡上市観光動態調査】



道の駅(買物)【郡上市観光動態調査】



7. 行・祭事分野の現状と課題

・7月から9月まで行われる「郡上おどり」と「白鳥おどり」は、年間40万人を超える観光客が訪れています。郡上市の夏場の観光産業としては欠かせない行事であり、今後も保存会を中心に伝統を守る必要があります。

○東海北陸自動車道の全線開通により観光客は増加するが、アクセスが便利になることで日帰り客が増えていると思われます。

◇郡上市の「文化・歴史」「自然体験」「食」などのPRを行い「郡上おどり」「白鳥おどり」と併せた宿泊プランを作成し組織的に運営ができる体制整備が必要です。長期滞在型のプランを作成することにより、滞留客が増加し旅館民宿業、飲食業など所得の向上に繋がります。

8. イベント分野の現状と課題

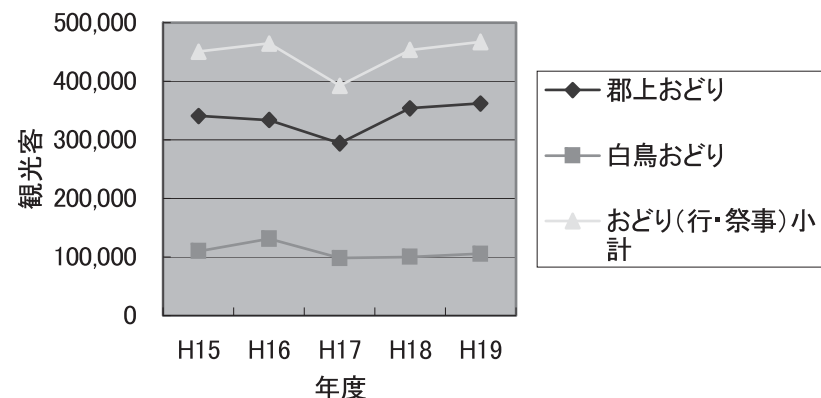
・郡上市のイベントへの観光客は、全体的に多少変動はあるものの横ばいで推移しています。めいほう高原音楽祭はH15年には18千人の入込客がありましたが、H19年には6千人と3分の1までに落ち込んでいます。

○屋外イベントは天候により入込客が左右され、大きなリスクを負うこととなりますが、郡上市のPR、経済効果、地域の活性化には大きな意味があります。

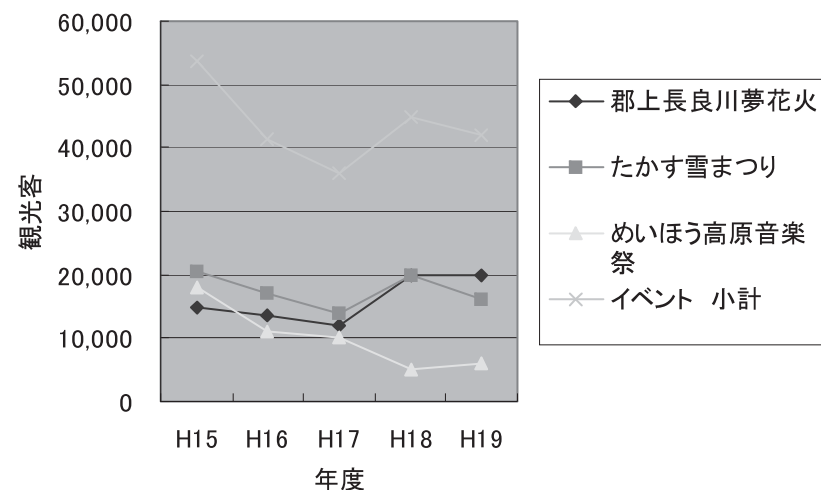
◇都市住民を対象としたイベントは、人と人との交流の場として地域の活性化や地元のPRに繋がります。但し観光客のニーズは変化しており、今までのものをそのまま継続しても効果は上がりません。開催するにあたっては十分な分析が必要となります。また、各種イベントの「目的」「意味」「効果」を主催者はもちろん市民が理解し納得できるものにすることが重要です。

観光客、入込客の増加はもちろんですが市民、関係機関等が協力して計画・実施することにより、イベントへの「思い」「達成感」を分かち合うことで地域の活性化に繋がります。

おどり(行・祭事)【郡上市観光動態調査】



イベント【郡上市観光動態調査】



9. 観光客は多いが、宿泊客は少ない

- ・入込客は年間 600 万人を推移していますが、滞在時間は短く客単価も低くなっています。現在、郡上市は最終目的地高山市・下呂市への休憩地にしかすぎません。

○滞在時間の延長に繋げることが必要です。

◇郡上市には「文化・歴史」「自然体験」「食」「郡上おどり」など魅力的な施設や体験が数多く存在します。まず第一に、旧 7ヶ町村ごとの文化・歴史・自然・体験学習・食などをすべて拾い上げ、情報をまとめ、この資源をネットワーク化しプランを構築することが必要です。旧町村ごとではなく、市内全域を繋げ拠点を設け案内することが必要です。

10. 外国人観光客は増加している

- ・台湾観光客の増加などにより、宿泊客は増えていますが、市内を案内する通訳や看板などが整備されていません。

○外国人の受け入れ体制を整えることが必要です。

◇郡上市の文化施設、歴史施設には韓国語、中国語、英語のパンフレットを作成し配布します。S A・P Aなどには案内看板などを設置します。また外国人観光客専門のインストラクターを養成し、市内観光業者へ外国文化・習慣等の講習会を行います。

11. あるがままの郡上を伝える

- ・郡上市には、「文化・歴史」「自然体験」「食」「郡上おどり」など魅力的な施設や体験が数多く存在しますが活かしきれていません。

○新しい観光施設を造るのではなく、情報をネットワーク化しあるがままの郡上を伝えることが必要です。

◇商工会・観光連盟・観光協会が中心となって、NPO法人（又は（財）郡上八幡産業振興公社→（財）郡上市観光産業振興公社へ変更）を立ち上げるなど組織化し、郡上市全域の観光案内、観光プランニングなどを行います。その組織は情報発信はもとより、観光客に対し市内商業・観光・自然などあらゆることを案内し、地域の観光・商業活動団体へ協力します。また、市役所職員は郡上市の営業マンです。観光施設、観光資源の再認識や、維持管理として例えば月に 1 度、施設整備等活動を行い意識改革を行うとともに、民間事業者と一緒に、汗をかき思いを入れることが必要です。

